

令和 5 年 度
事 業 報 告 書

社会福祉法人 上田明照会

目 次

- 1～2 法 人
- 3～4 甘露保育園
- 5～8 蓮の音こども園
- 9～10 ともいき宝池慈光
- 11～12 ともいき宝池和順
- 13～14 ともいきライフ月影
- 15～16 ともいきライフ住吉
- 17～18 上田明照会グループホーム
- 19 相談支援センターほっと

1. 理事会・評議員会等の開催状況

	開催年月日	出席人数	決議事項
理事会	I 令和5年5月31日	理事6名 監事2名	① 令和4年度事業報告について ② 令和4年度決算報告について ③ 令和4年度監査報告について ④ 役員の改選について ⑤ 定時評議員会の開催について ⑥ 会長の職務執行状況の報告について
	II 令和5年6月15日	理事6名 監事2名	① 理事及び監事就任の承諾について ② 理事長（会長）の選出について
	III 令和5年8月7日	理事6名 監事2名	① 児童福祉施設（甘露保育園及び蓮の音こども園）土地取得に係る不動産（土地）の売買契約について
	IV 令和5年11月9日	理事6名 監事2名	① 令和5年度第一次補正予算について ② 定款変更について ③ 運営規程等の変更について ④ 評議員会の開催について ⑤ 会長の職務執行状況の報告について
	V 令和6年2月21日	理事6名 監事2名	① 給与規則等の変更について
	VI 令和6年3月13日	理事6名 監事2名	① 令和5年度第二次補正予算について ② 令和6年度事業計画について ③ 令和6年度当初予算について ④ 運営規程等の変更について ⑤ 施設長の異動について ⑥ 評議員会の開催について
評議員会	I 令和5年6月15日 【定時評議員会】	評議員7名 理事6名 監事2名	① 令和4年度事業報告について ② 令和4年度決算報告について ③ 令和4年度監査報告について ④ 役員の改選について
	II 令和5年11月17日	評議員6名 理事6名 監事2名	① 令和5年度第一次補正予算について ② 定款変更について ③ 運営規程等の変更について
	III 令和6年3月21日	評議員6名 理事6名 監事2名	① 令和5年度第二次補正予算について ② 令和6年度事業計画について ③ 令和6年度当初予算について ④ 運営規程等の変更について ⑤ 施設長の異動について

【監事監査】 令和5年5月26日 令和4年度監査実施

令和5年度の理事会及び評議員会の開催方法については、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の取扱いが2類から5類に引き下げられた事を受けて、集合開催を基本として開催した。

2. 令和5年度 法人重点項目の取り組みについて（報告）

① 上田明照会新田施設の建替えについて

上田明照会新田施設（ともいき宝池慈光・ともいき宝池和順・相談支援センターほっと・法人本部）の建替えについては、昨年6月の定時評議員会において建設プロジェクトから建設委員会への承認を経て7月より毎月第3火曜日に建設委員会を実施した。

新事業所の構成については、生活介護事業を定員40名、就労継続支援B型を定員10名とし、多機能型事業所の定員50名と変更する事とした。また、現在、利用されている利用者のアセスメントについては、定期的な新田合同会議において相談支援センターほっとの職員も介入しながら丁寧に進めてきた。

新田施設の新名称は、法人全職員から公募し、応募のあった15の候補から建設委員会において「ともいき宝池慈和」に決定した。

当初の計画では令和8年4月に開所を目標としていたが、建設時の仮移転移動の時期を令和7年4月と定め、令和8年度中の完成を目標とするととした。

② 人材育成と職場環境の整備

福祉業界における人材不足は、さらに加速している。確保だけでなく、いかに職員の定着を図るかが課題になる。上田明照会としては、「株式会社マイナビ」との契約を更新し適切に法人の情報を発信してきたが、令和5年度はエントリーされる学生も少なく学生の採用は1名にとどまった。また、福祉学校や保育所養成校での連携も強化してきたが、学生採用は3名にとどまった。

今後も福祉学校や保育所養成校との連携を強化しさらなる協力体制を構築していく。保育所養成校の保育実習に関しても丁寧に受け入れていかななくてはならない。

昨年度から全職員に目標管理シートを作成し各管理者と共有してきた。年間の中で2～3回の管理者との面談で進捗状況を確認し自己評価を実施した。

今後、働きやすい職場作り、環境作りを考えながら利用者の意思決定支援を中心に考えていく職場環境が必要になってくる。

③ ICT（情報通信技術）の研究と活用に向けての取り組み

○甘露保育園において、業務の省力化及び効率化を目的として、10月より「コドモン」を導入した。児童の登降園の管理、保護者との情報共有、お便り等の情報発信をシステム化した事により、一定の効果が出ている。今後、他の事業所に関してもICT導入を進めていく。

○ホームページの活用・・・リニューアルして2年が経った。広報委員会と事業所が連携し、ブログや掲載情報の更新を行っているが、事業所によって、温度差が出ており、定期的にブログの変更等を進めていきたい。また、建設委員会における「新田建設NEWS」を今年1月より奇数月に発行しており、職員、ご家族に対して建設委員会の進捗状況の共有を図っている。

まとめとして

第三者評価に関して、蓮の音こども園が「コスモプランニング」によって無事受審する事ができた。これで令和元年度より実施してきた第三者評価は全事業所の受審が完了した。

新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行され約1年が経過した。生活も徐々に以前のスタイルを取り戻しつつある。各種会議や研修においてもコロナ禍はオンライン開催が主であったが、現在は、集合での開催が中心になってきている。ただ、すべてを以前の生活様式に戻すことは難しい。コロナの取扱いが変わった今、何が出来るのか！を踏まえて管理者を中心に働く職員一人ひとりのモチベーションを向上させていくための取り組みを実施して行く必要がある。

1. 施設の構成

《定員》 90名

《職員》 園長 主査 主任 保育士 看護師 栄養士 調理員等

2. 月別開園日数及び初日在籍人員

月	開園日数	在籍園児数					合計(人)	在所率(%)
		4歳以上児	3歳児	3歳未満児	0歳児			
4	24	48	18	34	0	100	111.1	
5	24	48	19	35	3	105	116.7	
6	26	48	19	35	3	105	116.7	
7	25	48	19	36	3	106	117.8	
8	23	48	19	36	4	107	118.9	
9	24	48	19	35	5	107	118.9	
10	25	47	19	34	5	105	116.7	
11	24	46	19	34	6	105	116.7	
12	24	46	19	34	10	109	121.1	
1	23	46	19	34	10	109	121.1	
2	23	46	18	34	10	108	120.0	
3	25	46	18	34	10	108	120.0	
計	290	565	225	415	69	1,274	118.0	

市町村別内訳 上田市 1,273人 坂城町 1人

3. 年間行事等実施状況

月	内容
4	入園式・花見散歩・稚児出仕・個別懇談
5	花まつり・個別懇談
6	交通安全教室・保育参観(幼児組)・プール開き・みそづくり(地域交流) 保護者会作業
7	七夕まつり・夏まつり・幼児組参観日
8	魂まつり・2期終業式
9	
10	運動会(クラスごと実施)・合同避難訓練・みそ開き(地域交流)・秋の遠足 観劇会
11	感謝訪問(勤労感謝)・保育参観(幼児組)
12	成道会・成道会お祝い発表会・防犯訓練・クリスマス会・もちつき会 マスカレードコンサート(地域交流)・2期終業式
1	ものづくり・どんど焼き・個別懇談会(幼児組)・おもてなし武将隊(地域交流)
2	豆まき・涅槃会・新入児連絡会(2回)・懇談会(2歳児)
3	ひな祭り・お別れ会・懇談懇親会(年長)・3期終業式・卒園式

毎月・・・誕生会・避難訓練・身体測定

4. 職員研修

県及び市保育園連盟主催・私立保育園協会主催の各種研修会への参加。またオンライン研修(ホイクテラス)を継続し、職員が時間を見つけ計画的に園内で受講した。研修場所への移動が無い事や時間を有効活用できることは職員の負担軽減につながっている。

5. 施設整備

- ・ICT導入(タブレット9台購入、園内Wifi環境整備)
- ・使用済みオムツ専用ゴミ箱2台、保管庫2台
- ・遊具点検の実施、砂場の砂補充

6. 援助結果及び課題

① 保育・・・子どもの主体性を尊重する保育の充実

I あそびの選択やつながりのある保育を考えた環境構成について工夫する

子どもの主体性の尊重については継続して取り組んできた援助である。”子どもは自ら学び、成長していく存在である”との認識を持ち、子どもが抱く興味・関心に基づく「やってみたい」の意欲を最大限に尊重できるように努めている。子どもの意欲を尊重しつつも、その年代に経験してほしい実体験や見聞を広げるための働きかけや保育者側が準備（配慮）をしておく事への意識づけが高まってきた。安心・安全を確保しながら自由度を高め、なおかつ成長を促す環境づくりは難しいが園児と職員と一緒に試行錯誤しながらもより良い保育へと園として歩み始めている。園児と職員だけでなく職員同士の関係性についても話す機会を継続的に設ける事で少しずつ職員間のコミュニケーションの向上につながり、保育の充実に向けた取り組みができてきている。

I C Tの導入を行ない9月より運用を開始した。職員・保護者ともに慣れない部分は多々あるものの運用開始に伴い職員の負担軽減に確実につながっている。I C Tの導入に伴い保護者とのコミュニケーションや連携の不足につながる懸念もあるが、I C T導入の意義を再確認しつつ両立ができるよう継続して取り組んでいく。

II インクルーシブ保育(ともに育ち合う)

各クラスから報告される「配慮が必要な園児への共通理解」については、全職員で情報共有した。配慮点に基づき意識的な関わりを継続するなかで発達を追うと、それぞれの成長が確認できるが、クラスを越えた関わりを増やせるような保育へとつなげていく。

その他援助を必要とする園児については、個別支援計画を導入し年3回保護者と確認・共有をしている。蓮の音こども園の園児との交流は、少しずつ自然発生的な交流も見られるようになり職員同士の意識変化も見られ始めた。甘露保育園児にとって蓮の音こども園児が特別な存在（お客さん）ではなく、一緒にいるのが当たり前になるように今後も蓮の音こども園と協働し、共生社会の構築を目指す取り組みは継続していく。

② 家族支援・・・家族連携と保護者支援の充実

様々なバックボーンを持つ園児一人ひとりを中心に置きながら、家族との関係性も良好に信頼関係を築けるように努めた。幼児組保護者を対象とした「保育参加」は6年目を迎え保育の現場を実際に見て・感じてもらう事はご家族との関係構築に有益である。保護者に給食を食べてもらえる貴重な機会でもあることから実施方法については検討していく。また、声なき声を拾い上げるために日々のI C Tでのやりとりだけでなく、家族の様子を見守る事で気づきから支援へと必要に応じてつなげていく。

③ 食育・・・食を通じた保育

安全であり、育っていく主体として機能向上とともに楽しむ食体験を積むための工夫とアレレギー等の除去食や窒息・誤嚥防止のための食事提供方法の煩雑化により業務にあたる職員は毎回緊張を強いられる状況が続いている。今後はコロナ禍によって制限されていたクッキングなどの実体験をする機会を再開し、野菜作りから調理、食べるといった線で食育を進めていきたい。

④ 地域との関わり

かんかん広場については、新型コロナウイルスの取扱いが引き下げられたが、感染防止対策のために中止する事もあった。園開放の機会が奪われる事で保育園選びの機会も減ってしまうが、入園申請前に個別で園見学の対応をする事で地域とのつながりは保つことができた。今後どのような企画であれば地域との交流が継続できるのか、地域の子育て支援を行なう保育園として地域に向けて何を、どう発信していけるのか、ホームページ・ブログの活用だけでなく地域とつながっていく発信が今後の課題である。

～全体を通して～

コロナ禍を経て、以前の形に戻すところと新たな形を継続するところのすみ分けを行なう1年であった。児童福祉施設として社会機能の維持に重要な役割を担うとともに乳幼児の集団生活施設として、子どもたちの健康と安全の維持を図るという重要な役割を担う事が求められている中、改めて幼児教育はいかにあるべきか考える1年だった。保育のやり方が少しずつ変わってきている中で我々は何を大切にすべきか、保育活動は目指すべき目的に向かえているのかを園として確認をし職員間の合意形成を得ながら職員は自分事と考え、園は一つのチームとして保育を進められるよう目指していく。

1. 施設の構成

《定員》 30名

《職員》 園長 主査・児童発達支援管理責任者 リーダー 保育士・児童指導員
作業療法士 管理栄養士 看護師 調理員

2. 入園児地区別利用契約人員及び療育日数

市町村	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
上田市	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	432
長和町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
坂城町	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	30
合計	40	40	40	40	40	40	39	39	39	39	39	39	474
開園日数	20	23	26	24	22	22	25	24	24	23	21	19	273

3. 入退園の状況

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入園	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
退園	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	15	16
退園理由	保育園等他事業所移行 4名						就学 11名		その他 1名				

4. 通園車走行状況

1号車（セレナ）8,204km

2号車（セレナ）5,554km

5. 年間行事実施状況

月	内容
4	入園式 親子遠足
5	運動会(クラス別) 花まつり 家庭訪問
6	家族参観(きりん組・らいおん組) プール活動
7	七夕 家族参観(うさぎ組) 防犯訓練
8	魂まつり
9	親子遠足(クラス別)
10	合同避難訓練 きょうだい児交流会
11	どろんこ祭(クラス別) 七五三
12	成道会 防犯訓練 クリスマス会 上田ライオンズクラブ交流会
1	ものづくり どんど焼き ももたろう展 家族参観(きりん組・らいおん組)
2	節分会 涅槃会 家族参観(うさぎ組) バイキング給食
3	ひな祭り お楽しみ会 卒園式

6. 職員研修等

法人内研修：虐待防止・メンタルヘルス研修会・初任者研修・中堅研修、等

施設内研修：事例検討会、業務管理研修・障がい者虐待防止・権利擁護伝達研修・虐待予防研修
・遠城寺発達検査を学ぶ会・信州上田医療センター島崎医師・清水医師学習会施設外研修：サビ管研修、更新研修・強度行動障がい支援者養成研修・CDS研修・保健栄養士
等専門職に係る研修・苦情対応システム研修会、等集合研修の参加が再開された。また、オンライン研修は受講のしやすさがあり、数多くの研修
を受ける事ができた。職員間で共有する事により有効な学びの機会を確保できた。

7. 施設整備・物品購入

・公用車の安全装置3台分

8. 療育援助結果及び課題

① 発達支援

令和5年度は全園児の71.9%が発達障害の確定診断、及び疑いを持つが未受診の2.5%を含むと74.4%の園児が特性に応じた専門的な支援を必要とした。その他25.6%の中には診断名も幅広く、医療的ケアの必要な園児が3名含まれている。指針となる「児童発達支援ガイドライン」の5領域を基盤とする個別支援計画の作成においては、アセスメント表を整備し、実際の子どもの様子、関わりから理解を深め、根拠のある目標設定と支援方法を職員間で共有した。個別対応が必要なケースは、小集団や環境調整により過ごしやすくなる状況もあり、個別やグループ活動、クラス集団の活動を段階的に配慮する事は、子どもたちの意欲を引き出すために最も必要な支援であると感じる。また、甘露保育園の子どもたちとの関わりにおいては、両園の職員が同じ思いで計画的に推し進めることができ、日常的な交流と共に、夏祭りやるんるんウィーク等の企画を通して、更に関わりを深める事ができた。その他、幅広い疾患や医療的ケア児が多いことから、安心・安全に生活経験を広げるために看護師と連携して取り組めた事は、チーム支援としての専門的な役割が果たせたと感じる。

② 家族支援

様々な家庭状況がある中で、保護者の思いを受け止める姿勢を大切にしてきた。子育てにおける悩みを傾聴し、個々のペースに寄り添っていくことや保護者が納得できる支援を共有できるようにした。実際の園生活を伝える手段としては、動画や写真等で伝えることにより、家庭では見られない子どもの「できている部分」を喜び合う共有のし易さがあった。原則月1回の親子で参加する「あそび虫」の会では、毎回参加することにより、保護者との振り返りの中で保護者が我が子に必要な関わりを理解し、家庭で実践できるようになるケースもあり、継続の意義を感じることができた。また、学習会を通して保護者自身の成功体験が前向きに子どもと関われるきっかけとなることや、同じ悩みをもつ保護者同士の関わりは、お互いの思いに共感しながら子育てへの後押しになっていく。個別性が高い家庭においては、関係機関と連携し家庭生活を見守り安全を確保できるよう支援してきたが、親子の関わりについては継続的なサポートが必要になっている家庭もあった。また医療受診に同行することで適切な情報共有が得られ、支援に活かすことができた。

③ 地域生活支援

支援を必要としている子どもの療育体験【のびのび教室】は、通常で開催として実施してきた。しかしながら、利用児の発達段階にばらつきや特性が様々であることから、危険やトラブルになりやすく、定員10名を7～8名の受け入れを調整することで開催してきた。遊びのスペースを分けて、空間の調整や活動内容、切り替え時の工夫などにより、見通しが持てるよう刺激の量に配慮した。また、地域生活への移行支援や当園を研修の場とし支援者の資質向上及び、双方の情報交換の場として関係機関と連携し、児童発達支援センターの役割を推進できるよう努めた。

9. 療育サービス等の利用状況について

① おもちゃ図書館

・甘露保育園遊戯室 年7回開催 ⇒ 来館者 119名 ボランティア のべ31名
・青木村図書館への派遣 年2回開催 ⇒ 来館者 14名 ボランティア のべ10名

② 療育相談 … P T外来相談/2回 S T外来相談/3回

③ あそび虫 … 年8回開催(11月は「パパの会」として計画)

⇒ 子ども65名 大人67名

④ のびのび教室 … 年25回開催

⇒ 参加児数 のべ120名

～全体を通して～

令和5年度はどのクラスも個別対応の状況が多くあった。子どもの特性に対する支援の難しさは日々職員間の振り返りや調整により方向性を確認し、リスクとしても回避しなければならない状況は、園全体としての調整も必要となった。次年度、未満児の入園や障がいの状況もあり、安全な環境調整を整備し、3期後半より4クラス体制への準備を進めてきた。子どもたちの安定と動きやすさから豊かな経験ができるよう、これからも子どもの個性と意思を尊重する姿勢を大切にしていきたい。

1. 構成

《職員》 管理者 児童発達支援管理責任者 訪問支援員

2. 訪問先

上田市公立保育園（3） 上田市認定こども園（1） 上田市私立幼稚園（1）
長和町公立保育園（2） 坂城町公立保育園（2） 青木村公立保育園（1）

計 8ヶ所・10名

3. 支援実施回数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
公立保育園	1	4	2	2	3	4	4	1	1	2	1	3	28
認定こども園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
私立幼稚園	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
合計	1	5	3	2	3	5	4	1	1	3	2	4	34

※公立保育園は上田市、長和町、坂城町、青木村。昨年度からの継続は4園。

昨年度からの継続4園は、8月に1園、9月に3園が終結。9月以前に開始した2園は、年度末で終結、9月以降に開始した3園のうち2園は来年度も継続となった。長和町公立保育園は、8月に終結後、9月より新規利用となった。

4. 訪問支援結果と課題

① 地域における子どもの発達支援

訪問事業は、発達が気になる子どもたちの地域生活を支援するために、具体的な支援を保護者と園全体で共有し、保護者が見通しを持つ事による不安軽減と園全体としての方向性と、本人や家族が安心して地域で過ごし、育っていくことを基本としている。本人のペースや強みを尊重し、好きな遊びや活動を十分に楽しみ、保育士と一緒に「できた」「楽しかった」という成功体験の積み重ねを基としている。身辺自立や活動の見通しを持つための視覚支援の方法や声かけのタイミング、環境設定、本人との距離感、個々の強みや特性を活かした関わり方等を場面ごとに提案し、活動や友だちへの興味、関心を高め、集団参加に繋げていけるようにした。また、保護者や保育士との関係構築にも配慮した。保護者や保育士が成功体験を積むことにより自信を持って子どもと前向きに関わっていけるように留意した。

② 地域支援機能強化と関係機関との連携

訪問依頼は、主に母子保健や行政を通じて寄せられることが多く、事前のアセスメントや支援会議を通して訪問開始となる。保育現場の環境は様々であり、各園の方針を尊重しつつ現状を捉えた上で具体的な支援の提案を行った。対象児以外にも発達の緩やかな園児が複数名在籍している園が多く、全ての園が複数担任制であったこと、担任間や園全体で支援方法の方向性の共有がなされている園が多く、発達支援の重要性が浸透していることは感じたが、市町村による地域格差やクラス毎の格差も感じた。目標達成に向けて特性に合わせた個別支援や合理的配慮、環境設定等を提案すると共に、構造化についても伝え、本人のみならずクラス全員が過ごしやすい環境を作れるような提案をしてきた。過ごしやすい環境の中で、クラスの仲間としての意識の向上に繋がると考える。カンファレンスでは、訪問時には見られない現状の聞き取りを行い、課題に対しての取り組み方を書面や具体物で示した。定期的なモニタリングでは、関係機関も同席する事で対象児の現状を共有し成長を喜び合うことができた。関係者との連携強化は地域に根付いて暮らしていくために更に重要になってくると感じた。

③ 専門性の向上

園の状況とすり合わせながら集団参加のためにどのような方法を提案すれば良いか迷う状況はあったが、本人にとって信頼できる保育士の存在が安心に繋がることから、対象児の思いに寄り添い共感し、活動場面によって個別対応と集団参加する場面に分けて無理なく楽しく取り組めるように進めてきた。説得力のある具体的な提案をすることで大人（保護者や保育士）が支援の見通しを持てるようになると次への意欲に繋がるため、大人自身も成功体験を得て自信を持てるよう、肯定的な声かけを行うように努めた。子どもの将来の自立と社会参加を長期目標と捉え、それに向けた現在の支援の根拠をしっかりと示し、支援方法をたくさん提案していけるよう努めていかなければいけないと強く感じている。加えて保育現場から学ぶことも多く、より柔軟な思考を持たなければいけないと感じた。

◎ 考察・まとめ

訪問先の園の環境や発達支援についての理解や取り組み方も様々であり、居住地ごとの格差やクラスごとの格差を感じることもあったが、カンファレンスの機会を設けることで、支援方法や思いの共有ができ、園や担任と保護者の信頼関係が構築され好循環に繋がっていった。カンファレンスで発言の機会を得ることで、参加している保護者は家庭での子どもの様子をよく見るようになり、肯定的に捉えられるようになったという保護者もいたことは大きな喜びだった。一方で、家庭内の事情で登園すること自体が難しいケースや保護者の事情でカンファレンスに繋がらなかったケースもあり難しさを感じた。今後も訪問支援が保護者や保育士の心の拠り所となるよう、きめ細やかな配慮で支援を提供したい。年度を跨いだ長期継続となるケースについては一考の余地があると考えます。

1. 事業所の構成

生活介護事業 定員 20名 契約利用者数 26名
 《職員》 管理者 サービス管理責任者 主任支援員 支援員 看護師

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	22	22	21	21	21	21	21	20	20	20	20	22	251
東御市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	8
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
長野市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
合計	26	26	25	25	25	25	25	24	23	24	24	26	298
延べ人数	401	394	410	404	379	376	400	350	321	344	325	372	4,476
開所日数	24	24	26	25	23	24	25	24	24	23	23	25	290
1日平均	17	17	16	17	17	16	16	15	14	15	15	15	16
利用率	85%	85%	80%	85%	85%	80%	80%	75%	70%	75%	75%	75%	80%

3. 入退所の状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	2	3
退所	—	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	3

4. 年間行事実施状況

月	内容
4	お花見 誕生日会
5	歯科検診 誕生日会 花まつり 慈光行事 上田養護学校事業所説明会 避難訓練
6	誕生日会
7	誕生日会 夏祭り 魂まつり 丸子北小学校教員研修 避難訓練
8	誕生日会 苦情対応実践講座
9	防災行事 事業団健診 誕生日会 避難訓練 虐待防止研修
10	内科検診 誕生日会 てとと祭り 苦情対応システム研修
11	誕生日会 新田文化祭 避難訓練
12	メンタルヘルス研修 忘年会 誕生日会
1	誕生日会 手洗い講習
2	節分豆まき 涅槃会
3	慰労会 誕生日会

5. 支援結果及び課題（「 」内令和5年度重点目標）

◎「利用者が自己選択できる機会と場所の提供」

利用者さんがよりその人らしく生活を送るため、自己選択と自己決定できる力は必要であり、支援の中で取り組んできた。ご本人に関する事を自ら選ぶことは社会で自立した生活を送るために必要な事であり、充実した生活を送るうえでも欠かせない。選択するための体験と体験の中から自分でもできそうだ、できると感じてもらえるよう職員がサポートしてきた。また、活動を選択してもらう時に人数・参加予定者、場所の情報を視覚的に提供し、選択・決定しやすい環境を整えた。

新田施設建設後に向けた取り組みとして、ともいき宝池和順の作業種体験をすすめ、利用者さんの興味や可能性と活動の広がりを感じるとともに、職員の意識変容も必要となる。気まぐれ屋の活用は継続して行っている。参加する利用者さん毎に目的や目標を担当者と考え、一人ひとりの個性や考えを尊重しながら取り組んでいる。

◎ 「関係機関連携における家族支援の充実」

利用者を取り巻く環境の変化は刻々と進んでいる状況である。行政はもちろんのこと、相談支援センターやケアマネージャー、介護保健サービス事業所担当者と連携しセーフティネットが構築され適切なサービスへ繋げている。コロナ禍を経て短期入所の利用が再開してきている。再開を希望される利用者が複数人出てきている中、利用にあたりご本人やご家族と事業所が改めて丁寧な情報共有と連携を密にして成功体験となるようにすすめていきたい。適切なサービスが提供され、安心して生活が送れる準備と、将来を見据えた支援内容を話し合い、ご本人が新しい生活に向けた希望や展望を持てるように経験を積み重ねることが必要になる。

◎ 「支援記録の充実と効果的な活用を図る」

支援を記録することは利用者さん、ご家族、職員間において重要なコミュニケーションツールとなる。記録を目的にするのではなく、誰が見ても利用者さんの状況が把握できるように分かりやすく記録することが必要となる。また、事故が起きた場合の状況や原因、対応の証拠となり、利用者さん、ご家族からの質問に適切に答えられるため、信頼関係の構築にもつながる。支援経過記録の蓄積と記録内容の質を上げていく事で、根拠ある支援を確立し利用者の思いや願いに寄り添う機会をさらに増やしていく。

6. 利用相談

上田養護学校高等部より卒業後の進路相談、事業所説明会への参加、実習の受け入れを行った。コロナが5類へ移行した後は感染状況を確認し、感染対策を行い受け入れを進めた。結果、3年生で3名、2年生で2名の現場実習受け入れを行った。さらに、見学者は2年生で2名受け入れ、卒業後の利用希望も出ている。卒業後、利用希望がある生徒については、丁寧に情報提供や現場実習でのフォローを行っていききたい。

地域の困難ケース受け入れについては問い合わせがあり、行政・事業所と連携し情報を共有しながら受入を進めているケースや、他事業所の休止による利用についての問い合わせも来ているケースもある。また、年齢や生活環境の変化に伴い、入所施設等の利用を希望されるケースが想定できる。令和5年度、3名が入所施設へ移行している。事業所間の情報共有を密に行い、体験利用等を進めることでご家族・ご本人が将来の展望を持って移行を迎えられるように体制を整えていきたい。

7. 健康・安全

感染予防対策を継続して行いながら、利用者さんが安全・安心して利用できるように努めてきた。また、各健康診断を実施し、結果についてはご家族と共有し必要に応じて受診を勧めるようにしてきてきた。

送迎を必要とする利用者が多く、3方面3便対応をしている状況下で、送迎中にタイヤのパンクといった事案が発生した。タイヤの摩耗状態を把握していたが交換時期の判断が遅くなった事が原因であった。怪我等がなかった事は幸いであったが、送迎業務にあたる際は命を守ることが第一であることを再認識し、日常の整備・点検、安全運行に努めていきたい。

B C P（業務継続計画）については、令和6年度から義務化されることもあるため、新田施設として各種感染症・非常災害発生時の策定を行った。職員への周知とともに、有事の際に運用できるように研修と訓練も適宜行っていきたい。

8. 職員研修

長野県及び長野県知的障がい福祉協会主催研修会、法人内研修（初任者研修・虐待防止研修・メンタルヘルス研修）事業所内研修（事例検討会・苦情システム研修・感染症対応研修）長野県が主催している「障がい者虐待防止・権利擁護研修」へ参加した。

今年度は、外部研修への参加機会が例年に比べて少なくなってしまった。研修は、職員が研修で得た学びをスキルや知識として吸収し、個人の成長を促し、支援で活かすことが目的であり、研修へ参加することで現場では経験できない学びや気づき、現場から離れ日常業務の振り返りに繋がる。

研修参加方法はオンライン研修と集合研修が複合的に行われており、時間を有効的に利用した参加が可能になっている。研修に参加する目的を共有し、職員と相談しながら研修機会を設けていきたい。

1. 事業所の構成

生活介護事業 定員 30名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 リーダー支援員 支援員 看護師 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	350
千曲市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
東御市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
坂城町	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
立科町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	37	37	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	434
延べ数	689	684	728	673	635	671	719	681	677	638	630	690	8,115
開設日数	24	24	26	25	23	24	25	24	24	23	23	25	290
1日平均	29	29	28	27	28	28	29	29	29	28	28	28	28
利用率	97%	97%	93%	90%	93%	93%	97%	97%	97%	93%	93%	93%	93%

3. 入退所の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

4. 年間行事実施状況

月	内 容
4	春のお茶会
5	希望外出(おやきファーム・川中島古戦場) 花まつり 歯科検診
6	
7	希望外出(佐久プラザボウル・八億)
8	関東ブロック種別代表者会議
9	希望外出(湯ノ丸高原・草笛) 内科検診・事業団検診
10	秋のお茶会 てとてと祭り
11	新田文化祭 きらきらアート展見学 希望外出(大池農園・八ヶ倉)
12	利用者忘年会
1	新年のお茶会(初詣)
2	涅槃会
3	年度末慰労会

5. 生産活動種目及び実績

① 作業種目

受託生産	小牧山霊園作業 《願行寺》
	工業用紙袋加工作業 《鈴与マタイ株》
	箱折り作業 《富士丸福株、コムパックスシステム株、塚田メディカル・リサーチ株》
	清掃作業 《長野県工科短大》
自主生産	味遊カフェ営業、道の駅や直売所での委託販売 珈琲焙煎作業、クッキー製造作業(販売・配達)

② 作業実績

◎収入	
受託作業	2,091,247
自主生産	16,082,508
合計	18,173,755

◎支出	
作業工賃	6,407,839
諸経費	11,765,916
合計	18,173,755

6. 支援結果及び課題 (『』内 令和5年度重点目標)

(1) 『コロナ禍における生産活動の開拓と物価高騰に対応していく』

コロナウイルス感染症が5類に移行した中、自主生産活動である味遊カフェにおいては、コロナ禍以前の状態に戻すべくイートインを5月より再開し、順調にお客さんの足も戻ってきた。来客数は令和4年度の4,836人から10,871人と約2.2倍となった。また、コロナ禍に開始したテイクアウト営業もニーズが高く、併行して継続する中で、カフェ全体の売上げの落ち込みを回復すべく取り組んできた。前年度比にして、味遊カフェ単体では、約1.3倍の収益増加となった。クッキーに関しては約1.2倍、コーヒーでは、約0.9倍であった。近年、市場物価が高騰しており、商品単価への反映が課題となっている。来客数に比べ、平均客単価は減少している状況ではあるが、付加価値を模索しつつ、年度末において原価率の見直しをカフェ会議にて検討した。令和6年度に反映すべく準備を勧めている。

受託生産については、新規に導入した箱折り作業「塚田メディカル」では、約1.5倍の収入増となった。さらなる生産量のアップを受注会社より打診を受けたが、品質維持(不良品対策)や作業全体の生産量との兼ね合いの中、現実的に可能な範囲での生産計画とした。企業のニーズに合った生産量の維持については今後の課題となった。

(2) 『ご家族及び地域との連携』

地域や自治会等との交流も、できるだけコロナ禍以前の状態に戻すべく取り組んだ。数年振りに、「てとてと市」の縮小版「てとてと祭り」を開催することができた。地域で活躍されているフラダンスサークル活動の方や、長野医療専門学校の学生さん、音楽喫茶の仲間の皆さんのバンド、ご家族のピアノ演奏等との交流が実現でき、利用者、職員共に地域の温かさを感じる事ができた。また、地域の方より、お声掛けいただき、味遊カフェ自主生産品を地区の各種イベントにて販売も行った。

家族部会では、ご家族皆さんが一同に会する機会が縮小していたが、5類移行を契機に再開した。久しぶりに顔を合わせての会話に喜びを感じるご家族の姿が復活した。改めて事業所との連携を深める機会の意義は大きいと認識した。さらに、今年度はご家族の要望もあり、部会にて成年後見制度等のミニ勉強会を実施し、将来への不安解消へ向けての取り組みも実施した。

7. リスク・健康・安全管理

リスク管理、とりわけ通所時の安全確保については、突然の事故等による公共交通機関の運休、遅れ、渋滞などが度々発生し、その都度利用者の安全確保に努めた。予期しない利用者の行動も発生し、ご家族、関係事業所、関係機関との事前調整など、より安全なネットワークの構築が求められた。また、通所経路における、歩道等の傷みや段差、構造物の破損などによる危険箇所や障害物などの道路事情においても、関係する機関との連絡を実施し、補修などの対応を求めた。

自然災害(豪雨等)における対応については、家族と連携し、帰宅の調整を行った。さらに、新田事業所全体で、事業継続計画(BCP)の作成や、避難確保計画、非常災害対策の共有を図り、実際に各種訓練も実施した。

新たに法人保健委員会とも連動し、感染対策指針を策定し、感染予防の推進を進めてきた。各種健康診断を実施し、その結果を受けてご家族に受診を勧めるようにした。

8. 職員研修

法人外研修：長野県及び県知的障がい福祉協会主催各種研修会(W e b)
法人外視察研修(みまき福祉会)

法人内研修：事例検討会、業務管理研修、初任者研修、中堅職員研修、虐待防止・要望等伝達研修

9. その他

新田事業所の建て替えに向けての委員会が本格的に稼働し、将来の事業所統合を目指す中で、ソフト面での準備として新田合同会議を立ち上げ、ともいき宝池慈光の利用者、職員との総合交流を始めた。具体的には、定期的に日々の日中活動に於いて、小人数での利用者と職員の体験を取り入れ、顔の見える相互交流を企画した。

1. 施設の構成

障害者支援施設 (生活介護) 定員 60 名
 (施設入所支援) 定員 50 名
 (短期入所) 定員 6 名

《職員》 管理者 主査 主任 サービス管理責任者 支援員 准看護師 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人員及び延べ支援日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	310
長野市	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	71
須坂市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
飯山市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	157
坂城町	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
東御市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小諸市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
原村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
松本市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小谷村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
青木村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	67	66	67	67	67	67	67	67	67	67	67	66	802
延べ数 (生活介護)	1,254	1,261	1,244	1,284	1,263	1,294	1,340	1,279	1,329	1,278	1,181	1,317	15,324
延べ数 (施設入所支援)	1,437	1,430	1,414	1,452	1,422	1,468	1,513	1,481	1,494	1,477	1,392	1,517	17,497

3. 入退所の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
退所	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	0	0	4	2	2	0	6	13	2	0	18	14	61
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	4	2	2	0	6	13	2	0	18	14	61

5. 実施した生産活動等支援種目

作業・・・園芸作業、農作業 等

その他・・・創作活動、リハビリ支援、歩行支援、地域交流活動、手芸、調理実習 等

6. 職員研修

知障協研修・・・自閉症支援セミナー、強度行動障がい支援者養成研修、支援スタッフ部会 等

法人内研修・・・専門研修、初任者研修、チームリーダー研修、要望等解決定例会、虐待防止・身体拘束に関する研修、業務管理研修、メンタルヘルス研修 等

法人外研修・・・虐待防止伝達研修、苦情システム対応研修、千曲・坂城地域自立支援協議会

7. 年間行事実施状況

(5月より5類に引き下げられたが、地域の状況を踏まえつつ、月当番企画で工夫する)

月	内 容
4	個別グループお花見(縮小) 月当番企画 救急講習 誕生日会
5	月礼会 月当番企画(こいのぼり企画) 救急講習 訪問リハ ともいきG・あおぞらG食事会 動物ふれあい訪問 誕生日会 訪問販売会
6	村上小学校交流会 月礼会(草刈り) ともいきG食事会・あすなろG食事会
7	「スイカ割!」(月当番企画) 納涼会 誕生日会 歯科検診 月礼会(草刈り)
8	「花火大会」「ミニ運動会」(月当番企画) あおぞらG食事会 誕生日会
9	ともいきG食事会 月当番企画 法人虐待防止研修 月礼会(体育館掃除) 事業団検診 誕生日会
10	おひさま販売会 月影まつり 家族部役員会 村上保育園交流会 村上小学校交流会 誕生日会 あすなろG食事会 訪問リハ
11	つきかけ焼き芋大会(月当番企画) 誕生日会
12	忘年会 誕生日会 クリスマス装飾(月当番企画)
1	動物ふれあい訪問 ともいきG食事会 誕生日会
2	「豆まき」(月当番企画) あおぞらG食事会 訪問リハ 誕生日会
3	利用者自治会選挙 「お疲れ様会」「誕生日会」(月当番企画) 親の会役員会 月影部役員会・総会

8. 支援経過及び課題(『 』内、令和5年度重点目標)

◎『利用者の日常生活充実』

日常の生活環境を快適にすべく、生活委員会や環境整備委員会を中心に、シーツ・カバー交換、寝具の入れ替えなど年間計画に沿って実施した。衛生管理も歯磨き支援等の際に飛沫による感染防止を優先したことや、食事の提供方法(部屋食・弁当形式での提供)等の場面において、ご不便をお掛けしてしまうこともあった。関連して帰省などの対応については、帰所されてからの健康観察期間の対応をとらせていただいた。

地域・ボランティアとの関わりについては、村上小学校4年生・村上保育園児との交流を月影体育館で行うことができた。実際の人参加においては、1回目の交流から2回目の交流へと大きく内容を発展充実させ、お互いの信頼を構築することに繋がった。

利用者さんのメンタルヘルスの取組として、通常のイベントとは別に月当番企画を令和5年度も企画し、さらには、法人より協力を得てのイベントを開催することができ、コロナ禍に比べて通常の日常生活を送れるよう取り組んだ。

◎『個性を尊重した社会生活の充実』

利用者さんの本来持っている力に着目し、誰もが機会とチャンスを実現できるようにチームとして取り組んだ。小規模ではあったが、あおぞら農園での栽培作物を、食事の場で活用していただいたり、おやつ作りに活用したり、販売を通してやりがいに繋がった。利用者自治会では、利用者一人ひとりの声を丁寧に聴くことを通じて、自分の意見を皆に聞いて貰ったとの満足感を醸成した中で、意思決定をご自身が形成し、表出する支援の展開を意識し取り組んだ。日々の積み重ねを大切にしたい。

◎『共生社会を意識したご家族と地域との連携』

新型コロナ禍において、5類移行後も感染状況を見極めながら村上小学生や村上保育園児の地域交流を月影体育館で再開することができた。月影家族部会との交流では、事業所周囲の草刈り等の環境整備を、多くのご家族の協力を得て実施でき、家族同士の繋がりを維持する機会となった。また、月影まつりではご家族限定ではあったが参加・開催することもできた。ホームページの活用においては、日常の様子をブログにて定期的に発信を行った。

利用者さんの日々のストレスを少しでも軽減すべく、電話によるご家族の方と会話をする機会を意識して多く取り入れた。

1. 施設の構成

障害者支援施設 (生活介護) 定員 30 名
 (施設入所支援) 定員 30 名
 (短期入所) 定員 4 名

《職員》 管理者 サービス管理責任者 リーダー支援員 支援員 看護師 准看護師
 栄養士 事務員

2. 利用者市町村別初日在籍人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
上田市	22	22	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	254
東御市	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
佐久市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
千曲市	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4
佐久穂町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
辰野町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
筑北村	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合計	30	30	29	29	29	29	29	29	30	30	30	30	354
延べ数 (生活介護)	638	667	634	672	690	660	690	660	688	677	594	647	7,917
延べ数 (施設入所支援)	870	899	890	925	930	900	928	900	921	906	817	886	10,772

3. 入退所の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入所	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	2
退所	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2
	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2

上段：施設入所支援 下段：生活介護（在宅）

4. 短期入所事業の状況（月別利用延べ人数）

区分\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
成人	12	14	44	26	23	32	22	17	7	24	11	20	252
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	12	14	44	26	23	32	22	17	7	24	11	20	252

5. 実施した支援項目

作業・・・園芸作業・椎茸作業・農作業

その他・・・リハビリ支援・歩行支援・高齢者グループ支援・食事、おやつ作り・料理活動・

足浴支援・創作活動個別活動・自立課題の活動・音楽活動・入浴支援・相談支援

地域交流活動：ふれあい会に参加 神科小学校4年生：講義「障がいの理解と苦手さの体験」

6. 職員研修

法人内研修～初任者研修・初任者フォロー研修・中堅職員研修①③・虐待防止研修・メンタルヘルス研修・法令遵守マニュアル研修

施設内研修～事例検討会・感染症等の予防及び対応について・県虐待防止伝達研修会・通報訓練、避難訓練

施設外研修（長野県知障協主催各種研修会・その他）

知障協：新任職員セミナー・代表者会議・行動障がいスタートアップ・人権倫理研修会・自閉症支援セミナー半日受講・食事部会・保健部会・事務部会・実習生受入説明会

その他：長野県障がい者虐待防止・業務継続計画（BCP）策定研修・苦情対応システム研修会・感染症及び食中毒の発生、まん延防止に係る研修会・安全衛生推進者養成講習会・防火管理共通課程講習会

7. 年間行事実施状況

月	内 容
4	お花見外出（東御中央公園、信州国際音楽村、住吉周辺）・親の会総会
5	外出（武石公園・さかき千曲川バラ公園）・心電図・内科検診・家族会環境整備
6	外出（さかき千曲川バラ公園）・歯科検診・リハビリ講習
7	外出（山王山公園）・夏祭り・婦人科検診・乳房検診
8	外出（菅平高原）
9	さつまいも掘り・リハビリ講習会
10	住吉まつり（ご家族ご招待）・住吉家族部会 ・外出（紅葉狩り：上田城址・小諸懐古園・道と川の駅・真田）
11	女子会・男子会・販売会・焼き芋大会・伊勢山のふれあい会
12	忘年会
1	どんど焼き
2	豆まき
3	お疲れ様会・リハビリ講習会・親の会総会・住吉家族部会総会

*月単位行事：避難訓練・誕生日会・誕生日月昼食会・体重血圧測定等

*ご家族：個別支援（お墓参り、日中帰省送迎、入所されている母親との面会外出）

*料理訓練（マカロニグラタン・かぶのスープ等）や少人数食事会（おやつ会・飲食店弁当テイクアウト）を年間を通して実施。

*各種検診（歯科検診、内科検診、事業団検診、婦人科検診等）

8. 支援結果及び課題（『 』内、5年度重点目標）

◎『利用者さんの幸せづくりにシフトしていく』

施設入所されている利用者さんの年齢が23歳～87歳で平均年齢が58.7歳となっている。昨年度は5月と10月と2名の方が亡くなり、11月、12月に新規2名入所された。障害支援区分は平均5.5と変わらず高水準にある。女性の平均66歳、男性51歳となり女性の高齢化および行動障がい等の重度化が進んでいる状況は変わらない。

理学療法士と言語聴覚士による訪問リハビリを年2回実施し、日常生活の機能維持の為にリハビリメニューを検討、実施、評価をしていただいた。また、行動障がいの理解を研修を通して深め、環境の配慮の大切さと強みを生かした支援の展開を図り、課題となる行動の軽減に繋がった。

今後の課題として、サービス等利用計画と個別支援計画書の連動を現場レベルで再認識できる工夫を行い、更にアセスメントの重要性を再度確認し、支援計画まで根拠となるニーズ整理を行い、ご本人の満足度を評価しPDCAサイクルで支援を展開していく。また、高齢者介助及び支援の向上の為、知識、介護技術、嚥下機能、排泄ケア、褥瘡予防等の理解を深めていく。

◎『利用者さんの幸せを考え、チャレンジと成長し合える仲間づくり』

行動障がいのある利用者さんと高齢利用者さんが共生する生活の場となっており、より安心・安全に生活できるように環境を整え、チームで支援にあたるように努めている。行動障がいの理解を支援員だけでなく、多職種が研修会に参加することで、課題行動と言われる苦しさの意味、視覚支援の意味、理解を共有することができた。また、利用者さんによっては、タブレット等の機器を導入して支援の幅を広げた。農園芸活動は、維持継続できるように住吉全体で意識して取り組んでいる。研修は全員が参加できていないので、職員と面談を通して1回は外部研修に参加できるように配慮をしていきたい。また、研修後の伝達研修や実践につながるようにチームで検討していく。

◎『ご家族や地域とのつながり』

12月と2月に新型コロナウイルス感染症や胃腸炎が蔓延したが、利用者さん職員も重度に至らなかった。ご家族とは環境整備、部会、帰省（日中外出）、連絡票、通院同行、住吉まつりの参加を通してご家族の思いを確認するなど交流を深めることができた。伊勢山のふれあい会に参加し、地域との交流を始めることができた。短期入所に関しては、地域生活支援拠点で緊急短期入所の受け入れ実施や通所事業所からの体験短期入所も受け入れをしてきた。保育課程実習8名、社会福祉士課程実習2名を受け入れ、実習を通して障がい福祉の理解、自分たちの支援の振り返りの機会をいただいた。長野大学のゆいまーとの交流会を再開し、創作活動を一緒に行うなど交流を2回実施した。金銭管理を含めた後見制度を利用する利用者さんは7名になった。これからも家族支援と地域で必要される住吉を目指していく。

1. 事業所の構成

◎新田ホーム	(定員 3名)	利用者男性	2名	(上田市 1名 千曲市 1名)
◎和ホーム	(定員 3名)	利用者女性	3名	(上田市 2名 長野市 1名)
《職員》	ホーム長	サービス管理責任者	生活支援員	世話人

2. 利用者の傾向について

令和5年度、6月に男性利用者がともいきライフ月影に移行し、12月には女性利用者がともいきライフ住吉に移行された。これに対して、1月より新たに女性利用者がGHの利用を開始された。男性利用者は6月より1名欠員となっているが利用希望者の体験利用を行いながら、本利用に向け準備を進めている。男性平均年齢49歳、平均支援区分3、女性平均年齢56歳、平均支援区分4となり、共同生活の中で、若い方から高齢の方と幅広いニーズをとらえながら、支援を行っている。また、コロナも5類となりご家族とのつながりを継続できるように定期的に連絡を取り合いながら帰省も再開している。物価が上がり、燃料光熱費や食材費の高騰もあったが、利用者に協力していただきながら、職員も食材や生活日用品の購入方法を工夫し、昨年より利用者負担を抑える事が出来た。日中活動の場としてともいき宝池和順通所の方が2名、ともいき宝池慈光通所の方が2名、一般就労をしている方が1名となっており、少しでも活動や仕事の励みとなるように、利用者が利用されている事業所や職場への思いを聴き取り、時にはアドバイスをしながら、活動場所と連携を取り、下支えが出来ればと思い支援をしている。

3. 生活費用（毎月の一人当たりの負担額）

	新田ホーム	和ホーム	備考
生活費	35,000円	35,000円	食費・光熱水費等
家賃	18,000円	18,000円	定員割（3名）

4. 支援結果及び課題（『 』内、5年度重点目標）

①『グループホームが心安らぐ場所であるよう、人間関係の調整に力を注ぐ』

家庭的な雰囲気の中で支援を提供しながら、それぞれに安心して生活できる空間を工夫し、職員と気軽に話をする中で悩みや思いを聴きとるように心がけてきた。それでも利用者同士のトラブルは繰り返され、課題として残っている。GHの中だけでは解決しない問題もある為、日中活動場所と連携しながら、利用者さんの楽しみややりがいを包括的に考え、少しでも良い方向性が出せるように改善していきたい。

②『感染症予防・介護予防等の考え方を取り入れ支援に活かしていく』

今年度GHの中では感染症が広がることなく過ごせている。日々の健康チェックやGH内の消毒や手洗い等の継続、また、保健マニュアルやBCP（業務継続計画）を確認しながら、いざという時に備えたい。

③『社会情勢を踏まえながら、地域との関わりによる生活の充実感を得るために、行事（お花見会・忘年会・青年会）等の地域参加をより前進させていく』

自治会の行事も再開され、地域の方と触れ合いながら、イベントや地域作業に参加できた。今後も感染対策を行いながら、地域との関わりを持てる機会を作り参加していきたい。また、GHが透明性のある健全な運営をするため、更なる地域とのかかわりが求められている。来年度には地域連携推進会議の設置が義務化となり地域の方やご家族に積極的にGHの活動を見ていただく機会を設けるようにしていく。

④防火・防災・防犯における地域との連携を構築していく

自動通報装置、自動消火設備を設置し備え、職員連絡網を作り有事の際はすぐに緊急時の対応が出来るようになっており、必要に応じ自治会のご協力が得られるようにしている。年2回通報訓練を実施し避難訓練も昼間想定 夜間想定と設定を変え行っている。GHを知っていただく意味も含め、今後自治会の方の参加も検討したい。BCPについても整備が進み、災害への備えや、対応等が記されており、備蓄や避難経路、避難場所の確認を定期的に行い、普段より意識を高めておく事が大切となる。

5. 職員の研修

法人の業務管理マニュアル、法人研修（虐待・接遇）をDVDで視聴し研修を行い、また、県の虐待防止研修の伝達研修を行った。利用者さんとの関係作りや、障害特性に応じた対応の方法、自身の働き方等を学ぶ事が出来た。研修で学んだことを会議で報告してもらい、支援の悩み、困り感を共有し、成果も出ている。

6. 施設整備

利用者さんが快適で安全な生活が出来るように、利用者からの環境への要望は出来るだけ早く解決出来るように対応した。高齢の方も利用している為、転倒予防のセンサーライトの設置や滑りやすい通路は補修等をおこなっている。

7. 今後の展望

グループホームは利用者さんが、安心安全に暮らせる場として、また、地域の方と一緒に活動をしなが、地域の一員として活躍できる場として環境を整えて行く事が大切になる。地域の資源を使いながら、生活の場や働く場、活動の場を下支えし、意思を汲み取り、将来性のある支援の展開をしていきたい。引き続き、地域の方がグループホームに関わっていただく事で、開かれた活動が出来、透明性のある運営が継続できるようにしていきたい。

1. 事業所の構成

《職員》 管理者兼相談支援専門員 主任相談支援専門員 相談支援専門員

2. 指定障害児相談支援 指定特定相談支援事業所の実施状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施総件数	35	31	47	35	27	62	44	30	38	33	26	83	491
モニタリング・者	20	18	15	16	22	21	15	17	32	31	22	23	252
モニタリング・児	6	3	10	1	0	30	10	0	1	0	1	14	76
モニタリング計	26	21	25	17	22	51	25	17	33	31	23	37	328
計画作成・者	8	9	21	18	5	11	19	13	4	2	3	8	121
計画作成・児	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	38	42
計画作成計	9	10	22	18	5	11	19	13	5	2	3	46	163

3. タイムケア事業実施状況

＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
4年度(人数)	0	1	2	1	2	2	2	2	2	1	3	1	19
5年度(人数)	2	2	1	1	2	2	2	2	3	1	1	1	20
比較(5-4)	2	1	-1	0	0	0	0	0	1	0	-2	0	1

4. 支援内容と重点目標のまとめ

(1) 利用児者の意思及び人権を尊重し、利用児者の立場に立った適切かつ円滑な相談支援を提供し、公正中立な事業運営を目指す。

コロナの影響を受けた前年度に比し、令和5年度は対面での相談業務がほぼ可能となり、それまでの日常を取り戻しつつある。そもそも相談支援事業は、障害福祉サービス等の直接支援に至らない様々な相談を受けとめ、関係機関、当事者、家族から寄せられる情報から、中核をなす主訴を見極める必要がある。その上にその後の支援の方向性を見出す使命を持つことを念頭に置きながら、所内での意見交換を重視し担当者に留まらない支援体制を構築してきた。

令和5年度スタート時には、地域で暮らす方を中心に個々のご本人ニーズを再検討し、より適切な相談支援事業所に繋いだケースが複数あった。そのため、取り扱う相談件数は前年度より計画相談・モニタリングの総数が35件減少したが、機能強化型（I）事業所（専従4名）として体制を整備したことにより、減収を避けながら丁寧な相談支援の展開に努めた。

(2) 法人内（外）各事業所のサービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者等との円滑の情報共有に努め、ライフステージを見通す一貫性・継続性のある相談支援に努める。

特に法人内事業所において、相談支援が作成するサービス等利用計画（障害児支援利用計画）と各事業所のサービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）が作成する個別支援計画（児童発達支援計画）の連動について注視し、適宜話し合いの機会を意図的に設け、現場との対話にも努めた。ともすると必然に迫られた形式的で事務的な計画作成に陥るリスクがあり、モニタリング場面を通して担当者やご本人と対面し意見交換をしながら、日々の支援を通じて利用される方々の生活に変化が起きる実働的な計画作成に向け、考え方の整理を行った。この取り組みは時間をかけて継続し、個別ケースに中心的に関わる現場職員が日々の業務を行う意味や価値・向かうべき方向性を見失わないことの重要性についても引き続き共有していく。

(3) 行政及び基幹相談支援センター、地域の関係する機関との連携を図る。

一人ひとりの支援に対し個々に関係する機関や人材が存在しており、個々の状況により差異はあるが、相談支援専門員が中心となり、各関係機関から提供可能な地域資源を明らかにし稼働させていく。地域の実務担当者や繋がっていく中で、支援が重層的に広がることは地域の福祉力向上にも寄与することとなる。

基幹相談支援センター等が実施する事例検討会等への参加は今年度も計画的に行ってきた。また、主任相談支援専門員を地域の福祉活動に派遣し、地域の人材育成等に貢献した。

5. 職員研修

(1) 法人内研修：法人事例検討会、虐待防止・権利擁護伝達研修、要望等解決定例会、所内研修

(2) 法人外研修：上小圏域ケアマネジメント連絡会、県知的障がい福祉協会（代表者会・相談支援部会・情報提供型研修）、上小圏域自立支援協議会（療育発達専門部会研修・人材育成部会）、国際医療福祉大学大学院石山麗子教授（研究代表）研究協力、令和5年度相談支援従事者現任研修（2名）、基幹相談支援センター強化研修、誰一人取り残さない防災に向けた取り組み 等